

インフォシス(NYSE: INFY) 2016 年度第 2 四半期の決算を発表

2016 年第 2 四半期の収益は米ドル換算で 3.5% の連続成長、恒常通貨ベースで 3.9% 増

前年同期比では米ドル換算で 8.2% 増、恒常通貨ベースで 8.9% 増

上半期の収益の伸びは報告ベースで前年同期比 9.5% 増、恒常通貨ベースで 10.5% 増

営業利益は報告ベースで 80 ベーシス・ポイント改善して 24.9% にアップ

今四半期の取引高の伸びは 4.0%

2016 年第 2 四半期の研修員を除く稼働率は 200 ベーシス・ポイント継続的に改善して 82.5% にアップ

2017 会計年度の収益予想を恒常通貨ベースで 8.0%~9.0% に修正

インド、バンガロール: 2016 年 10 月 14 日

財務ハイライト

2016 年第 2 四半期の国際財務報告基準(IFRS)に基づく連結決算

2016 年第 2 四半期

- **2016 年第 2 四半期の売上高は 25 億 8700 万ドル**
前四半期比の伸びは報告ベースで 3.5% 増、恒常通貨ベースで 3.9% 増
前年同期比の伸びは報告ベースで 8.2% 増、恒常通貨ベースで 8.9% 増
- **2016 年第 2 四半期の営業利益は 6 億 4400 万ドル**
前四半期比で 7.0% 増
前年同期比で 5.6% 増%
- **2016 年第 2 四半期の純利益は 5 億 3900 万ドル**
前四半期比で 5.5% 増
前年同期比で 3.8% 増
- **2016 年第 2 四半期の 1 株当たりの利益(EPS)は 0.24 ドル**
前四半期比で 5.5% 増
前年同期比で 3.8% 増%

- 現金、現金相当物および投資などから成る流動資産は、前四半期の 2016 年 6 月 30 日時点で 49 億 1800 万ドル、前年度同期 2015 年 9 月 30 日時点で 48 億 9400 万ドルだったのに対し、2016 年第 2 四半期は 53 億 4900 万ドル。
- 取締役会は 1 株当たり 11 (1 米ドル 66.62 ルピーの換算レートで ADS 1 株当たり 0.17 米ドル) の中間配当を公表。中間配当の基準日は 2016 年 10 月 24 日で、配当の支払日は 2016 年 10 月 26 日。

最高経営責任者ビシャル・シッカは、「第 2 四半期は強力な実行力に重点を置き、中核の IT サービス事業も当社の強力なイノベーションと運用イニシアチブで順調な進展が見られました。不透明な外部環境の中、しっかりと舵を取りながら、当社は戦略の実行と、ソフトウェアにサービスを組み合わせたモデルの推進力の増強に引き続き集中しています。今年度上半期の実績と不透明な短期景気見通しに鑑み、収益見通しの修正を行っています。長期的には、コストに基づく人間のみのモデルから、ソフトウェアや AI によって人々の暮らしが広がり、当社の顧客の未来にとって戦略的な分野で人間が自由に革新を進めるモデルへと

進化することにこの業界の未来があると益々確信しています。そして、この極めて重要な変革の中で当社が前進し続けることを嬉しく思います。」と述べています。

最高業務執行責任者 U. B. プラピンは、「当四半期、当社は市場区分において包括的な成長を遂げました。デリバリおよびサポート・チームが要員管理の計画を上手く実行した結果、稼働率が上昇しました。また、従業員エンゲージメント、方針の変更や高業績社員の褒賞が当社の質の高い労働力の維持に継続的に役立っていることも喜ばしく思っています。」と述べています。

最高財務責任者 M.D. ランガナトは、「当四半期中、当社の利幅は更なる経営効率の改善を背景に拡大しました。当期の営業活動によるキャッシュ・フローは健全であり、堅実なヘッジにより不安定な通貨環境を効果的に乗り切りました。」と話しています。

業績見通し*

国際会計基準(IFRS)に基づく2016年度の企業見通し(連結ベース)は以下の通りです。

- 恒常為替レートの売上高は 8.0% ~ 9.0% 増の見通し*
- 上記の恒常為替見通しは、3月31日のレートに基づく米ドル換算では 8.2% ~ 9.2% となり、9月30日のレートでは 7.5% ~ 8.5% となる

*2016年度恒常為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.73、ユーロ/米ドル 1.10、英ポンド/米ドル 1.51

2016年3月31日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.77、ユーロ/米ドル 1.14、英ポンド/米ドル 1.44

2016年6月30日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.75、ユーロ/米ドル 1.11、英ポンド/米ドル 1.35

2016年9月30日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.76、ユーロ/米ドル 1.12、英ポンド/米ドル 1.30

取締役会異動

指名および報酬委員会の勧告により、取締役会は2016年10月14日付けで D.N. Prahlad 氏を社外取締役に任命しました。

D. N. Prahlad 氏はバンガロールの Surya Software Systems Private Limited の創設者兼最高経営責任者です。Surya は、金融機関全般と特に銀行の金融リスク管理の製品に特化しています。Prahlad 氏は、バンガロール大学の理学士課程を優秀な成績で修了しているのに加え、バンガロールのインド理科大学で B.E. (電気技術および電子工学の学位)を取得しており、同大学院コンピューター・サイエンス/オートメーション学部の諮問委員を務めています。

Surya の創設以前、Prahlad 氏は、インフォシスの形成期に当社と関連があり、当社の急成長において重要な役割を果たしています。

取締役会議長 Seshasayee は D. N. Prahlad 氏の就任を祝って、「著名な科学技術者である Prahlad 氏を当社の取締役会に迎えることを大変嬉しく思います。彼は Surya 社の深い知識のみならず、業界に対する鋭いインサイトももたらしてくれます。」と述べています。

指名および報酬委員会

2016年10月14日開催の取締役会は、指名および報酬委員会の勧告により、株主の承認を条件に、最高業務執行責任者兼常勤取締役 プラピン・ラオの年俸を2016年11月1日より改定することを承認しました。報酬には年 4.62 カロールの固定報酬と最大で年 3.88 カロールの変動報酬が含まれます。さらに、2016年度の功績に基づき、2016年3月31日付けの郵便投票で株主により承認された2015年ストック・インセンティブ報酬制度(2015プラン)の下、制限付き株式ユニット

(RSU) 27,250 株とストック・オプション 43,000 株が付与されます。この RSU およびストック・オプションは 4 年に渡って権利が確定し、報酬委員会が承認した期間内に権利を行使できます。RSU の執行価格は 1 株の額面と等価、ストック・オプションの執行価格は株主が承認した付与日の市場価格と等価となります。今後の RSU およびストック・オプションについては、功績達成の状況により、指名および報酬委員会の決定に応じて付与されます。

2016 年 10 月 14 日開催の取締役会は、指名および報酬委員会の勧告により、ランガナト、Mohit Joshi、Sandeep Dadlani、Rajesh K Murthy、Ravikumar S、David Kennedy、Krishnamurthy Shankar およびマニカンタ AGS の報酬体系を 2016 年 11 月 1 日付けで改定することを承認しました。改定後の上記個人の報酬総額には 24 カロールの固定報酬と最大 20 カロールの変動報酬が含まれます。さらに、2016 年度の功績に基づき、2016 年 3 月 31 日付けの郵便投票で株主により承認された 2015 年ストック・インセンティブ報酬制度 (2015 プラン) の下、RSU 245,750 株とストック・オプション 502,550 株が付与されます。RSU およびストック・オプションは 4 年に渡って権利が確定し、報酬委員会が承認した期間内に権利を行使できます。RSU の執行価格は 1 株の額面と等価、ストック・オプションの執行価格は付与日の市場価格と等価となります。監査委員会は、2016 年 10 月 13 日開催の会議で、IndAS 第 24 号「関連当事者についての開示」の定義に従って、同会議日より Mohit Joshi、Sandeep Dadlani、Rajesh K Murthy、RaviKumar S、Krishnamurthy Shankar および David Kennedy を主要管理職に加えることを決議しました。ビシャル・シッカ、プラビン・ラオ、M.D. ランガナトおよびマニカンタ AGS は、2013 年会社法のセクション 2 (51) で定義された主要管理職員です。

インフォシス リミテッド取締役会の指名および報酬委員会は、2016 年 10 月 13 日開催の会議において、2016 年度の功績に基づき、2016 年 3 月 31 日付けの郵便投票で株主により承認された 2015 年ストック・インセンティブ報酬制度 (2015 プラン) の下、最大で合計 425 人の優れた業績が認められた受給資格のあるインフォシスおよびその子会社役員に対し最大で RSU 906,275 株とストック・オプション 943,810 株を付与することを承認しました。RSU およびストック・オプションは付与日から 4 年の間に権利が確定し、報酬委員会が承認した期間内に権利を行使できます。RSU の執行価格は 1 株の額面と等価、ストック・オプションの執行価格は付与日の市場価格と等価となります。

事業に関するハイライト

当社は、学習と教育の社風を通して推進される自動化とイノベーションにより、Renew-New 戦略を遂行し続けます。

RENEW

第 2 四半期は、中核サービスにおける既存顧客との関係を深め、従来型の大規模契約を獲得すると共に、インフォシス Mana および当社のゼロ・ディスタンス・イニシアチブにより、当社が提供するサービスのあらゆる側面で自動化と草の根のイノベーションの促進に重点的に取り組みました。

「データ量は飛躍的に増加し、今や人間は空前の速度でデータを知識に変換しており、そのような専門知識や情報を体系化してソフトウェアに盛り込むことは不可能です。システムが学習する必要があります。また、学習するシステムを実用化する必要もあります。インフォシス Mana は正にこれを具現化していると思われます。」(出典: 2016 年 10 月 4 日発行 451 Research 報告書「*Infosys Mana uses AI to extract knowledge from processes and control business outcomes*」、著者: Carl Lehmann, Katy Ring)

AMD IT 部門 コーポレート・バイス・プレジデント Andy Bynum 氏は、「最も重要な業務アプリケーションを含め、当社のオフ・ザ・シェルフおよびカスタム・アプリケーションの全ポートフォリオの開発およびサポートにおいてインフォシスは望ましいパートナーです。当社は、ビジネス上の問題を解決するために AI や機械学習を活用することで未来志向の企業を創りたいと強く望んでいます。IT 運用の総費用を削減すると同時に、自動化推進、効率改善、生産性向上および業務プロセス・レベルの途絶の削減による業務プロセスの最適化とユーザー体験の向上を促進するために当社はインフォシス Mana を選択しました。」と話しています。

Global Production Services、UBS マネージング・ディレクター Hans-Juergen Rieder 氏は、「GPS L2 アプリケーション保守／サポート・ベンダー統合プロジェクトをインフォシスに発注することを大変喜んでます。当社はインフォシスの**全体的に深遠なソリューション**と、自動化、アナリティクスおよび知識管理に対応した **Mana プラットフォームの利用によるサービス変革に向けた尽力に感銘しました**。今回の契約は、生産性を大幅に改善し、サービスを最適化および強化するという当社の目標達成を後押ししてくれると信じています。これは当社とインフォシスとの間の戦略的関係を大きく前進させるものであり、プログラム・デリバリの成功に向けてインフォシスと共に進んでいくことを楽しみにしています。」と述べています。

アリゾナ・パブリック・サービスのプログラム・マネージメント・オフィス・リード Christine Gonzales 氏は次のように話しています。「ここ APS での何百万ドルもの節約に留まらず、エンド・ユーザー顧客にとってシステムが柔軟且つ敏しうで、すべてのニーズに応えてくれることこそが真のメリットです。インフォシスとの提携と**ゼロ・ディスタンス・イニシアチブ**により、**公益事業がしばらく直面してきた複雑な問題を解決することができました**。」

CISCO グローバル・サービス・オファリングス シニア・ディレクター Steve Power 氏は次のようにコメントしています。「当社がワールド・クラスの顧客サービスで目指すのは、ここ Cisco で我々が顧客サービスを提供する方法をひっくり返し、実際に改革し、完全に作り変えることです。我々は、デジタル化を利用して、業務を推進する多くのプロセスの簡素化、標準化および自動化を可能にすることを目指しています。そうすることで人材への投資を変えることができ、延いてはスタッフと顧客との対話を改善できます。当社の最大の節約は支出額にして 80% の節約です。**ある特定のプロセスだけで顧客の待ち時間を 2 百万時間削減しています**。とても有意義でした。インフォシスの柔軟性と我々と共に変化する能力に本当に感謝しています。今後 20 年間、このパートナーシップを継続していきたいと考えています。」

世界的な大手専門小売事業者である Gap Inc. は同社のアプリケーションおよびインフラのポートフォリオ全体をサポートするテクノロジー・サービスの**第一プロバイダーにインフォシスを選択しました**。この重要なマイルストーンは 2 社間の 18 年に及ぶ関係を更に強化するものです。

NEW

第 2 四半期、当社は顧客やパートナーと共同で新分野および新開地の取り組みを継続してきました。また、すべてのプロジェクトにおいてデザイン・シンキングを中心テーマとしてきました。

GE の CEO 兼 GE デジタル & チーフ・デジタル・オフィサーである Bill Ruh 氏は、「GE とインフォシスは、当社の物理世界とデジタル世界の融合について共通のビジョンを持っています。Predix プラットフォームの早期導入者として当社はインフォシスと提携し、**デジタル・ツイン、プリリアント・ファクトリーおよび AI の先進概念で新しいアプリケーションの共創イノベーション**を促進しています。この共同イノベーションにより、企業による業務の簡素化、自動化および変革を支援するインダストリアル・インターネット・ソリューションやアプリケーションを含めた顧客への幅広いサービスが提供されることとなります。」と述べています。

Australian Institute of Superannuation Trustees (AIST) ストラテジー・アンド・マーケティング エグゼクティブ・マネージャーの Theresa Hoogland 氏は次のようにコメントしています。「先日、オーストラリア退職年金基金のマーケティングおよび顧客体験部門のトップ 15 人と共にパロ・アルトのインフォシス設計チームを訪問してきたばかりです。インフォシスは、**優れた顧客体験戦略を策定するための設計主導の考え方**の理論や実践について素晴らしい学習セッションを開催してくれました。訪問グループは、インフォシス設計チームと有意義な時間を過ごただけでなく、帰国後それぞれの業務ですぐに利用し始められるフレームワークを持ち帰りました。」

USG Boral の最高財務責任者 Paul Monzella 氏は、「**デザイン・シンキング**は、当社のコラボレーション体験の再考に向けて**チームの団結を促進した**と共に、社員が大胆な発想を持ち、その発想を持ち寄って短時間に実用的なインサイトを達成する上で**も有用**となりました。さらに、デザイン・シンキングは面白くて興味をそそるものでした。」と話しています。

Kohls チーフ・デジタル・オフィサー Ratnakar Lavu 氏は次のようにコメントしています。「当社はインフォシスと共に、**デザイン・シンキングと Skava デジタル・プラットフォーム**を利用して、顧客、共同経営者および当社の大局的見地から**体験の強化**に取り組んでいます。」

Skava、Panaya および EdgeVerve

今四半期、当社は、次世代のショッピング体験を実現する未来志向のアーキテクチャーを企業に提供する近代的でモバイル・ファーストのモジュラー e-コマース・プラットフォームの新標準である Skava Commerce を発売しました。インフォシスが買収した e-コマースの新規事業である Skava は、人工知能 (AI)、機械学習、自然言語処理、仮想現実 (VR) と共に柔軟なクラウド型マイクロサービスおよびホワイト・ラベル・アプリケーションを利用して、新サービスの迅速な立ち上げ、デジタル・チャンネルの変換率の改善など多数の利点で小売業者を支援するプラットフォームを開発しました。

インフォシスと TOMS Shoes は共同で Skava Commerce を利用したオムニ・チャンネル・プラットフォームの導入に取り組んでいます。

Vantiv LLC インテグレートド・ペイメント 最高技術責任者 Balaji Devarasetty 氏は、「Skava と Vantiv は、たった 8 週間で新しく改善された Vantiv Advantage Program アプリケーションの共同立ち上げに成功しました。Vantiv のパートナーが販売を通して事業をより早く成長させることができるように、デジタル・エンゲージメント体験を拡張および簡素化しました。パートナーの既存ポータルをモバイル・アプリケーションに変換するのではなく、**Skava チームは更に一歩進んでアプリケーション全体を SkavaSTUDIO で再編集しました**。これにより、Vantiv チームはアプリケーションを完全に所有して管理し、更新や変更をパブリッシュすることが可能となりました。Skava チームの尽力のおかげで立ち上げに漕ぎ着けました。これをアプリケーション・ストアに公開して、その導入を目にするのを楽しみにしています。Vantiv のモバイル変革を楽しみにしてください。」と話しています。

Panaya

スイスの大手小売および卸売企業である COOP Group は、EHP5 から EHP7 へのアップグレードを伴う SAP HANA への**シームレスな移行**に Panaya を選択しました。**COOP の IT プロセス製品管理 マネージャー Davyd Däppen** 氏は次のようにコメントしています。「Panaya のソリューションの支援を得て、システムに多数の参照をインポートすることができました。まったく初めての経験でした。アップグレードだけに留まらず、SAP システムの品質を全体的に改善することができました。本稼働後、重大なエラーは無くなりました。最初の修正調整後でも訂正から始めることができるため、当社の開発部は歓迎しています。今後のアップグレードも、再び Panaya と協働することは間違いのないでしょう。」

EdgeVerve

今四半期、EdgeVerve 事業は Finacle と Edge の多彩なソリューションで**契約獲得数 48 件、本稼働件数 23 件**を達成し、さまざまな市場において高い業績を挙げています。

新時代のデジタル・バンキング企業は、最適なソリューションとして引き続き Finacle を選択しています。支払銀行の分野における成功を背景に、Finacle ソリューション・パッケージは Aditya Birla グループにより、予定されている同グループの支払銀行向けのソリューションとして選択されました。EdgeVerve は、AssistEdge、BrandEdge、TradeEdge など多様なソリューション全体で複数の新規顧客を増やし、Edge 製品の需要で好調を続けています。

今四半期、インフォシス Finacle も、Huawei の FusionCloud ベースのクラウド・プラットフォーム上で業界トップ・クラスの Finacle ユニバーサル・バンキング・ソリューション・パッケージが世界的に利用可能になったことを発表しています。

企業文化

当社は、従業員が各自の潜在能力を最大限に発揮できるよう、教育への投資を継続しています。インフォシス・グローバル教育センターや Udacity などの組織との提携を通して、能力の向上に取り組んでいます。

Udacity の創設者兼プレジデント Sebastian Thrun 氏は、「Udacity とインフォシスは生涯学習について同様のビジョンを共有しています。教育とは、もはや単一の目標に向かって何年かの期間で授業を履修することではなく、継続的に自分自身を振り返り、既に身につけた知識を広げ、全く新たな種類のスキルを学習するという生涯にわたる取り組みなのです。特に Nanodegrees では、最も需要の高いスキルについて、必要に応じて新たなスキルの短期取得を促進できます。この取り組みの一環として、インフォシスの新入社員全員が Udacity のオンライン Nanodegree 認定を受けることができるインフォシス専用の Udacity FastTrack プログラムを立ち上げることを非常に喜んでます。ユーザー体験、モバイルおよびウェブ開発などの常に進化し続ける需要の高い領域においてインフォシスのワールド・クラスの Mysore トレーニング・プログラムを Nanodegrees で補完し、これらの領域およびその他の分野のスキルや専門知識を短時間で向上させます。また、インフォシスの深い専門知識を利用して、業界で最も求められているスキルを使った実世界での経験に基づくプロジェクトを通して Nanodegrees に重要な実践的授業を取り入れることにも期待を膨らませています。」と話しています。

受賞および評価

- Seven 2016 Oracle Excellence 賞を受賞
- Infosys Finacle は、「Forrester Wave™: 顧客中心のグローバル・バンキング・プラットフォーム(2016 年度第 3 四半期)」報告書にてリーダーに位置づけられる
- Infosys Finacle Omnichannel Hub は、Juniper Research により、2016 年度デジタル・バンキングの「最優秀システム・ソリューション」賞を受賞
- IDC MarketScape による「2016 年度 グローバル Oracle 導入サービスにおけるベンダー評価」にてリーダーに位置づけられる
- 2016 年度「European ISG Paragon」賞を受賞
- 「ソフトウェア・テスト NelsonHall ベンダー評価および測定ツール」(NEAT)にてリーダーに位置づけられる
- 2016 年度シンガポール顧客体験アジア優秀賞の「CEM テクノロジー有効活用」で第 2 位
- IDC MarketScape による「2016 年度 WW 石油ガス専門サービスにおけるベンダー評価」にてリーダーに位置づけられる
- 「HfS Blueprint Report: エネルギー運用」で優秀賞
- 「HfS Blueprint Report: ServiceNow サービス」で優秀賞
- 2016 年度 OVUM Decision Matrix (ODM) の「ADM サービスの分散アジャイル・デリバリー・モデルの選択」でリーダーに位置づけられる
- 「2016 年度エベレスト・グループ・バンキング AO サービス・プロバイダー PEAK Matrix™ A 評価」にて、リーダーと最優秀者に位置づけられる
- 2016 年度の「エベレスト・グループ IT アウトソーシング・グローバル・キャピタル・マーケット PEAK Matrix™ 評価」にてリーダーに位置づけられる
- ガートナーの「IT サービスの Magic Quadrant」にて、グローバル通信サービス・プロバイダーでチャレンジャーに位置づけられる

事業外活動

当社は、我々が属するコミュニティに対する貢献と還元に尽力します。インドにおいてインフォシス基金は、リハビリ、医療、教育、美術・文化などに複数の助成金を提供しました。本四半期では、2014 年の台風の影響でホームレスになった世帯に対する 200 軒の住宅居住地の提供、ナラヤナ医療病院との提携によるロボット外科手術機関の、IIT Kharagpur の優秀な研究者に対する出張旅費の資金提供、インダス文明の遺跡調査の資金援助など、様々な取り組みを実施しました。

米国インフォシス基金は、CS PD 週間における高品質なコンピュータ・サイエンスおよびメーカーの教育者育成や、CS for All Community Giving プログラムを支援し、ホワイトハウスで#CsforAll へのコミットメントを発表しました。さらに同基金は、最大の、CS 教育者団体 (CSTA) の支援、優れた CS 教育の表彰、ニューヨーク・サイエンス・アカデミー (NYAS) の支援に向けて助成金を提供すると発表しました。

インフォシスについて

インフォシスはテクノロジー・サービスとビジネス・コンサルティングのグローバル・リーダーです。当社は 50 カ国以上の国々のお客様によるデジタル変革に向けた戦略の策定および実行を実現します。エンジニアリングからアプリケーション開発、知識管理や業務プロセス管理まで、当社のお客様が解決すべき問題を的確に把握し、効果的に解決するためのお手伝いをします。世界中の 19 万人以上のイノベーターから成る当社チームはその創造力に加え多様な産業とテクノロジーに関する知識や経験で他とは一線を画し、その能力は当社が取り組むすべてのプロジェクトで活用されます。

www.infosys.com を訪れ、インフォシス (NYSE: INFY) がどのようにデジタル時代における企業の成功を支援しているかをお確かめください。

セーフハーバー条項

本プレス・リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2015 年会計年度 (2016 年 3 月 31 日付) 年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov. でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合があります。また、本プレス・リリースの発表日は 2016 年 10 月 14 日であり、ここに記載された将来の展望は、この発表日現在において妥当と思われる想定に基づいています。当社は、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先

投資家関連

Sandeep Mahindroo
+91 80 3980 1018
Sandeep_Mahindroo@infosys.com

メディア対応

Sarah Vanita Gideon, India
+91 80 4156 3373
Sarah_Gideon@infosys.com

Pilar Elvira Wolfsteller
+1 (510) 944 4596
Pilar.Wolfsteller@infosys.com

インフォシスリミテッドと子会社

無監査連結中間貸借対照表

(100 万ドル、株式データを除く)

	2016 年 9 月 30 日	2016 年 3 月 31 日
資産		
流動資産		
現金および現金等価	4,763	4,935
短期投資	323	11
売掛金	1,737	1,710
未請求収益	584	457
前払費用とその他流動資産	777	672
金融派生商品	13	17
流動資産合計	8,197	7,802
非流動資産		
有形固定資産	1,681	1,589
のれん	566	568
無形資産	136	149
関連会社に対する投資	15	16
非短期投資	289	273
繰延税金資産	95	81
所得税金資産	788	789
その他非流動資産	108	111
非流動資産合計	3,678	3,576
資産合計	11,875	11,378
負債および資本		
流動負債		
買掛金	46	58
金融派生商品	-	1
未払法人所得税	578	515
前受金	2	4
前受収益	222	201
従業員給付債務	216	202
引当金	93	77
その他流動負債	929	940
流動負債合計	2,086	1,998
非流動負債		
繰延法人所得税負債	36	39
その他非流動負債	23	17
負債合計	2,145	2,054
資本		
株式資本 額面価格 5 ルピー (0.16 ドル)		
授權株式 2,400,000,000 株 (2,400,000,000 株)		
発行済み株式 2,285,651,730 株 (2,285,621,088 株)		
自己株式 11,292,934 株 (11,323,576 株)		
2016 年 9 月 30 日現在 (2015 年度)	199	199
資本剰余金	574	570
利益剰余金	11,553	11,083
その他剰余金	-	-
その他の資本構成要素	(2,596)	(2,528)
親会社の所有者に帰属する持分合計	9,730	9,324
非支配持分	-	-

	2016年9月30日	2016年3月31日
資本合計	9,730	9,324
負債および資本の合計	11,875	11,378

インフォシスリミテッドと子会社

無監査連結中間包括損益計算書

(100 万ドル、株式データおよび 1 株当たり純資産データを除く)

	2016年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	2016年度 第2四半期	2015年度 第2四半期
売上収益	2,587	2,392	5,088	4,647
売上原価	1,638	1,488	3,231	2,922
売上総利益	949	904	1,857	1,725
営業費用:				
販売費	134	129	271	258
管理費	171	165	340	316
営業費用合計	305	294	611	574
営業利益	644	610	1,246	1,151
営業外収益	114	121	226	240
関連会社の利益(損失)の分配	(1)	-	(1)	-
税引前利益	757	731	1,471	1,391
法人所得税費用	218	212	421	396
純利益	539	519	1,050	995
その他の包括利益				
損益に組み替えられない項目:				
確定給付純負債(または資産)の再測定	(6)	(1)	(9)	(2)
IFRS 9 の適用による上場債券の含み益戻入に対する累積影響	-	-	(5)	-
その他の包括利益による資本性金融商品	-	-	-	-
損益に組み替えられる項目:				
投資の公正な評価	-	5	-	3
海外事業の為替換算差額	119	(242)	(54)	(379)
その他の包括利益合計(税引後)	113	(238)	(68)	(378)
包括利益合計	652	281	982	617
当期利益の帰属:				
親会社の所有者	539	519	1,050	995
非支配持分	-	-	-	-
	539	519	1,050	995
包括利益合計の帰属:				
親会社の所有者	652	281	982	617
非支配持分	-	-	0	-
	652	281	982	617
1株当たり当期利益				
基本的1株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.46	0.44
希薄化後1株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.46	0.44

	2016 年度 第 1 四半期	2015 年度 第 1 四半期	2016 年度 第 2 四半期	2015 年度 第 2 四半期
1 株当たり収益算定に使用される加重平均株式				
基本的	2,285,641,710	2,285,614,029	2,285,632,081	2,285,612,157
希薄化後	2,285,949,303	2,285,713,042	2,285,875,988	2,285,696,678

注:

- 2016年度第1四半期および第2四半期の無監査の連結中間貸借対照表および中間損益計算書は、2016年10月14日の取締役会にて記録されました。
- 当社の業績に関する概況報告書については www.infosys.com からダウンロードしてください。